

学校を核とした地域ぐるみの防災教育カフェ 開催要項



1 趣 旨

本年は、自然災害大国に生きる子どもたち、国民一人一人にとって、学校、集団や地域としての防災力を高めることが不可欠であること、そして、地域の教育・人材育成機能を有する学校や教職員には、子どもたちに対する防災教育の充実に加えて、地域ぐるみの防災教育を牽引できる力量形成が求められることを、改めて認識した年である。

そこで、地震や津波に対する強い危機意識と実効的な施策を有し、以前から高い地域教育力を有する自治体を会場に、教職員支援機構（大学センター）と教職大学院が、防災教育に関する2日間の「カフェ」を行うことをとおして、地域ぐるみの防災教育を牽引できる教職員の力量の形成を図るとともに、地域課題の解決に資することとする。

2 主 催

山口大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻（教職大学院）
独立行政法人教職員支援機構、同 山口大学センター

3 共 催

山口県長門市教育委員会、山口県教育委員会

4 開催日時

第1日 令和6年11月 9日（土） 13:00～17:15
第2日 令和6年11月10日（日） 9:30～12:00

5 開催場所

第1日 山口県油谷青少年自然の家 〒759-4505 山口県長門市油谷伊上 1068 番地
第2日 長門市「青海島共和国」 〒759-4106 山口県長門市仙崎 2874 番地

6 参加者

現職教職員、教員志望学生、教育・行政関係者、地域住民や大学教職員 等

7 研修内容等

第1日

(1)開会行事 (13:00～13:10)

挨拶	山口大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻 専攻長	佐々木 司
歓迎挨拶	山口県油谷青少年自然の家 所長	田村 洋子

(2)専門（基調）講演 (13:10～15:10)

テーマ	「学校や地域における防災教育のあり方 ～現状や課題をふまえて～」	
講師	岩手県立図書館 館長	森本 晋也
	（前 文部科学省総合教育政策局安全教育推進室 安全教育調査官）	

(3)実践事例研究 (15:20～16:20)

テーマ	「学校を核とし、地域と一体となった防災教育の取り組み」	
実践発表者	長門市立日置中学校 校長	櫻井 敬子
同	長門市教育委員会 主任（社会教育主事）	藤本 悠司
指導助言者	岩手県立図書館 館長	森本 晋也

(4)カフェ（班別ちゃぶ台ワーク） (16:30～17:15)

テーマ	「地域ぐるみの防災教育アイデアと学校や教員の役割」
講師	長門市教育委員会

第2日

- (1) 講義（フィールドワークにあたって）（9:30～10:15）
テーマ 「青海島共和国と地域の活性化 ～地域の課題解決と学校への期待～」
講師 長門市「青海島共和国」 国王（代表） 濱 野 達 男
- (2) 施設見学、実地研修、意見交流等（10:15～11:00）
研修施設等 国会議事堂、官庁施設、国立博物館、周辺環境等
指導者 長門市「青海島共和国」担当者等
- (3) 講義（11:05～11:50）
テーマ 「土砂災害から命を守る
～災害は忘れた頃にやってくる→災害は忘れてならない へ！～」
講師 長門市「青海島共和国」 副代表
(NPO 法人山口県防災・砂防ボランティア協会 理事) 伊 藤 信 行
- (4) 閉会行事（11:50～12:00）
挨拶 教職員支援機構山口大学センター センター長 和 泉 研 二

8 その他

- (1) 本研修事業は、独立行政法人教職員支援機構「令和6年度 NITS・教職大学院・教育委員会等
コラボ研修プログラム支援事業」受託経費、同「山口大学センター」運営経費、山口大学教育
学部「ちゃぶ台研修部」事業経費等により運営される。
- (2) 今後の「新型コロナ」ウィルス感染動向や開催地の状況等に応じて、開催形態の変更（オンラ
イン研修等）、延期や中止の場合がある。





コーホート

18年目のHop! Step! Jump!

ちゃぶ台次世代コーホート通信第1号
山口大学教育学部（ちゃぶ台方式教職研修部）
ちゃぶ台次世代コーホート事務局
山口県山口市吉田1677-1

「Advanced course」と「Basic course」本年度最初の合同研修会

10月12日の午後、本年度初のコーホート研修会（Advanced course第4回研修会）を、山口大学にて開催しました。参加者は、受講生30人（現職教員16人、学生14人）、大学教職員14人、講師1人、計45人でした。

そして、昨年度に引き続き、託児サービスも行いました（託児スタッフ2人）。託児サービスは、受講生からの要望があること、主催者（組織）として「学び続ける教員」の育成や教職キャリアの形成支援には欠かせない課題、子育て支援や働き方改革に資する課題と捉えていること等をふまえ、昨年度より実施しているものです。託児サービスが本研修会で行われることで、教職志望学生にとっても、今後の教職キャリア形成をイメージすることにつながっていくと考えています。研修会開始前には、託児を行った「ちゃぶ台ルーム」をのぞいて、にこにこしながらお子様を見つめ、ふれあおうとしている教職志望学生たちもいました。



研修びらき

【自己紹介タイム】

「研修びらき」では、まず、自己紹介をした後に、封筒に入ったお題をもとに、交流を深めていきました。

例えば、以下のようなお題が封筒に入っていました。

- ★教師になろうと思ったきっかけは〇〇です。
- ★1番好きな給食のメニューは？
- ★こだわりの仕事道具は～です！（学生は勉強道具でも）
- ★教師になって1番うれしかったことは？
（学生はボランティアや教育実習等で子どもと関わったときのこと等）
- ★辛いときや元気がでないときどうやってリフレッシュしたり、自分の気持ちを盛り上げたりしていますか？ 等

【チームビルディングの活動】

班で高さを競う「ペーパータワー」という活動に取り組みました。班に渡すものは、A4用紙30枚とはさみ1個です。

以下が、ルールや流れです。

1. 30枚のA4用紙とはさみを配ります。
2. 作戦タイムを5分取ります。
 - ・どのようにしてタワーを作るか話し合ってください。
 - ・ただし、この時触ってよい用紙は1枚です。
 - ・機器を使って検索して方法を見つけるのは×です。
3. 作戦タイムが終わったら、組み立てタイムを5分とります。
 - ・班の机の上で組み立ててくださいね。
4. 10秒後も倒れずにいたタワーのみ高さをメジャーで測り、その中で最も高いものが優勝です！

それでは！受講生の感想と写真で、どんな様子であったか、何について学んだのか等について、お伝えします。



参加するようになって2年目の今年は、去年よりもできるだけ多くの人と関わることを目標にと臨んでいます。私のグループは、年代も立場も異なっていたからこそ、教員をして良かったこと、給食の好きなメニューで共感し合ったときには喜びを感じました。

また、休憩時間でも積極的に声をかけて下さる先輩の教員の方々は、子どもに対しても同じ姿勢なんだろうと思いました。私自身も不安なことを質問することができ、それだけでちゃぶ台に参加した価値があったと思います。
(大学4年生)

班で協力して解決しよう！



班で活動を振り返ろう！



SDGsを意識して
取り組んだ班もあったのですね！

タワーを作るのは、勢いも必要だった。時間が限られているので思い切っていやってみよう、というのが自分たちのグループにはなかった。2回目をやりたかった。

ちなみに私たちのグループは、SDGsを意識して、折って作るゴミ箱を積み重ねる方式にして、紙を捨てないでその後の再利用も考えました。それを持って帰りました。
(高校教員)

メンバーが違ったり、
方法を少し変えたりすると、
得るものが変わってくるのですね！

ペーパータワーは何度かやったことがあるが、テープなしは初めてだった。定番ワークなのでやったことがあるかな？と私は敬遠しがちだったのだが、行うメンバーでも感じ方や学ぶ内容が変わるなど感じたので、どんどんやろうと思った。
(高校教員)

同じ目標に向かって協力することは
仲良くなるのには一番の近道なのだな！

初めて同じ班になる人ばかりで、最初は緊張したけど、作戦会議をする中で自然と会話が増えていきました。同じ目標に向かって協力することは仲良くなるのには一番の近道なのだなと思いました。みなさんと一緒に考えつつ、自分の苦手な部分を同じ班の人がカバーしてくれたり、逆に得意分野で役に立ったり、自分の個性を生かして適材適所で頑張っていきたいです。教員になった際にも、適材適所を意識して他の先生と協力して子どもを育てたいと思います。
(大学院M1)

これからも、
コーホートでたくさん語り合いましょう！

自分はまだまだ知らないことがたくさんありちゃぶ台に参加できて良かったです。ちゃぶ台を機に、これからたくさんの人と話し学びを深めようと思いました。
(大学3年生：初参加でした！)



様々な視点からの気づきを得ました！

今回のグループは、大学教授、大学院生、高校教員、小学校教員（私）と立場が違うメンバーで組んだ。こだわりの持ち物の話では、同じ教員でも校種によって物の種類が違ったり、同じ文房具でも求めている要素が違っていたりし、面白い気づきが多くあった。紙を用いた高い塔づくりでは、子どもの気持ちになって、意見をまとめることの難しさや他の班と比べた時の恥ずかしさ（一番低かったので）等いろいろな感情を味わえた。またそれぞれの班への価値付けをどうするかも、今度は教員の立場になって考えてみるなど、多方面から活動を見ることができた。（小学校教員）

授業づくりともつなげて考えました！ 目的意識の共有って大切！

高く積み上げることの中には、それ以外の様々な目的が含まれていることが分かった。授業もこれと同じように、子どもが自然に様々なことに挑戦できるような環境を設定することの大切さを感じた。また、同じ目的意識を持てば、年齢や立場、性別の壁に阻まれることなく交流することができることが分かった。（大学院M1）

立ち居振る舞いや 職員室経営にも活かします！

チームビルディングにおけるコミュニケーションの重要性を改めて学びました。特に、批判的思考が働く健全な関係性を築くことが、相互作用をプラスに導くための重要な要素であると感じました。現職のモデルとなる姿勢が、学部生にとって社会での行動指標として重要なメッセージを発信するヒントになることにも気付かされました。また、研修前後の関係づくりが、今後の学びを最大化するために、中期・長期の視点が不可欠であることも理解しました。体験を通じた学びとその振り返りは、授業づくりの基本でもあり、探究的な学びにもつながります。チームビルディングが職員室経営や立ち振る舞いにおいても大切な基盤となることを実感し、今後の職場での実践に生かしていきたいと感じました。（小学校教員）

講義・演習

★テーマ：マンガをとおして伝えたいこと
～ボクらはサブカルチャーで育った～

マンガ家

（周南公立大学経済学部 特任教授）

なかはら かぜ さん



4月からの教員生活に生きる！

なかはら先生の波乱万丈人生を聞きながら、プロの道を歩むこと、究めることの大変さややりがいについて学ぶことができました。マンガを描きたいという動機よりも、マンガ家になりたいという動機を持つ子どもの方が、挫折があっても夢を追い続けることができるというお話が印象に残りました。このことは、将来の進路選択を考えるきっかけを与える立場である教員にも活きると思いました。（大学4年生）

【なかはら かぜ先生のご紹介】

- ・1955年山口県生まれ。大学在学中に漫画家を志し、1977年に『ゆきげしき』で小学館第18回ビックコミック賞佳作入選。
 - ・卒業後の1980年には『Good-byヴィーナス』で集英社第14回月例ヤングジャンプ賞佳作入選。
 - ・デビュー当初から地元山口県に定住して活動。
 - ・漫画以外にもCDのジャケットイラストや絵本の挿絵などを執筆しているほか、テレビのコメンテーターやラジオのパーソナリティなど、幅広く活動している。
- （ご講演会チラシより抜粋）

参加者の感想を紹介します。

「心が躍る体験」の保障と「価値付け」に 力を注ぎたい！

なかはらかぜ先生の講話で特に印象に残ったのは、「心が躍る経験」の重要性と、教員としての評価が生徒の記憶に与える影響です。先生は、子どもたちが自分の興味や関心に基づいて行動することの大切さを強調されました。夏休みなどの自由な時間は、興味を持ったことに積極的に取り組むことで豊かな経験を積むことができるのだと再確認しました。しかし、最近の子どもたちにはそのような「心が躍る経験」が不足していると指摘されました。教育現場では、生徒たちの興味を引き出し、主体的な学びを促す活動を積極的に取り入れることが重要だと感じました。

また、先生は「教員は覚えていなくても、生徒は自分が評価されたことを覚えている」とおっしゃいました。これは、教員の評価やフィードバックが生徒の記憶に深く刻まれ、将来の職業選択や人生の方向性に影響を与える可能性があるということだと思います。したがって、日々の授業や活動の中で、生徒たちの努力や成果を適切に評価し、励ましの言葉をかけることが重要です。その瞬間の評価が、生徒の自信やモチベーションにつながり、長期的な成長を促すことができるということを胸に刻もうと思います。（大学院M1）

子どもたちの「好き」や「やりたい」という気持ちを大切にしたい！

「好き」という気持ちは何にも代えられないということを実感しました。なかはら先生が漫画家を目指すきっかけとなったのは、彼女に好かれたいという思いからでしたが、結果的にその経験が彼の職業や宝になったというエピソードから、どんな動機であっても、ひたむきに追いつけることの大切さを学びました。

また、「今これをやりたい」という強い思いを持ち続け、それを大切にすることの重要性を感じました。周りの意見に左右されず、自分のやりたいことを貫く姿勢は、自分自身に対しても、また教育に携わる者として他者の思いを尊重する姿勢にもつながると感じました。これからは、自分の「やりたい」という思いを大切にしつつ、他の人の思いも尊重できる関わり方を心がけたいと思いました。

さらに、子どもの頃の経験から、「ルールを守らないと悲しい思いをするのは自分」という教訓を得たエピソードも印象的でした。教師に叱られながらも、描いた漫画を評価されたことから、子どもが突拍子もない行動をとる時、その思いを否定せず、何が間違っていたのかを伝える重要性を学びました。大人として、子どもの発想や思いを尊重しつつ、適切な指導を行うことのバランスが大切だと感じました。

これらの学びを通じて、教育現場でも子どもたちの「好き」や「やりたい」という気持ちを大切にしながら、成長を支え、共に学んでいけるような教育者でありたいと強く思いました。
(大学院M1)

「何かを盗みたい」「学びたい」と思えるような魅力を持った人であることも大事って感じた！

大学の頃に出会った彼女の影響で、アイビーが好きになり、また、漫画家さんとの出会いで、絵を描く人から漫画を描く人になったという話で、人との出会いが人生に与える影響の大きさを強く感じました。

私も、元々強いこだわりを持つ方ではなく、多くの印象的で素敵な人との出会いによって、今の私の好きなものや考え方、振る舞い方が形成されてきていると感じます。その上で、今後は教員として学生と関わる上で、自分と関わってくれる人や生徒が私の考えや行動から、何かプラスになるものを得てくれると嬉しいと思います。また、そのために自分の一つ一つの言動や選択をより洗練されたものにしようと身が引き締まりました。

今回のちゃぶ台午前(Advanced course)と午後(両コース合同)の研修両方に共通して感じたことは、児童生徒学生に何かを教える上で、的確なアドバイスをあげることも大切ですが、相手が自分の言動から「何かを盗みたい」「学びたい」と思えるような魅力を持った人であることもとても大事なことで感じました。

(大学教員)

私たち教員の役割って何なのか、教員のモチベーションを上げるものは何なのか…見つめ直しました！多くの気付きをくださった！

なかはらかぜさんの話をお聞きして、とにかくなかはらは漫画が好きで好きで好きでたまらないんだということが伝わってきた。

自分の仕事と照らし合わせると、教育という仕事が好きで好きで好きでたまらないのか、生徒と関わるのが好きで好きでたまらないのか、そして年々そういう熱が衰えずに高まっていくのか、ということを考えていたと思った。

キャリアを考えると、色々なものの影響を受けて方向づけられているのだということも考えさせられた。自分で選び取っているように見えて、色々なものに左右されてそういう方向に進んでいるということを考えれば、教職キャリアもそこに情熱を注ぎ込めるような出会いやトリガー、そうできるような環境や風土が必要だと感じた。「やっぱりこの仕事大変だけど好きだよ」と思えるような何かが、一年に何回かはそういう刺激が必要なのだと思う。授業を工夫した結果生徒がとてもいい反応をしたとあるとか、ある行事をやった結果生徒がいい方向に成長したなどの体験やその過程の振り返りの機会と、それを共有できる仲間や学びのコミュニティがそれぞれの教員に必要なと思った。

学校現場では様々なことをやるけれども、やることに目的になっていてその成果は何か、ピフォアフターの変化は何かということを見取るということを忘れてしまっているのではないかと感じている。それを見取る姿勢があれば、プロの目で分析をし成長があったか、なかったかということは判断できるし、何が功を奏したのか、何が成長を阻害をしたのかということを見取るし、次の手を打つことができる。こういうサイクルが回っていかないのは、そもそも最初の目的設定がない、または適切でない(いい加減)からで、ただやるばかりで終わっているからであると感じる。

同時に、生徒自身がなんとなく感じる成長や変化(またはずっと変わらぬ思い)について、表現させる、言語化するということが大事だと考える。特に高校段階においてはよりそれが求められると思う。なかはらさんのように「自分は〇〇が好きだ/自分には〇〇が大事だ」ということが分かったり確かめたりする機会を作りたい。

最後になかはらさんがおっしゃっていたように、教員の仕事は子どもに色々なものを投げてやること、そしてやりたいことの目の前まで連れて行ってやること、そして、(課題や何やらで生徒の時間を奪い合わずに)生徒に時間を返してやり、自分の好きなものを研究し、熱中する時間を生み出すということなのではないかと考えた。
(高校教員)

なかはら先生から
多くのことを学ぶことができました！

次回は学外で研修です。またコーホートで熱く語り合しましょう



ちゃぶ台次世代ステップアップ研修講座 「学級通信」
(ちゃぶ台次世代コーホート Advanced Course)

No.3 2024.10.25

(独) 教職員支援機構山口大学センター・山口大学教職大学院



お客さまや地域社会に役だつ存在意義ある企業... 損得よりも善悪... 私利よりも他者の幸せ... 異業種のリーダーから、教育の外側にある社会・文化から、何を学び取れるのかが試される一日!

まさに「清秋」、空気が清らかに澄み、暑さの収まりと爽やかな風が心地よい季節ですね。

10月12日午前、山口大学(教育21番教室)に、山口・広島県から現職教職員17人、教職大学院生10人、託児スタッフ2人、講師・大学関係者14人の43人が集まって「第3回研修会」を行いました。この日午後の「第4回(ちゃぶ台次世代コーホート第1回)研修会」には、マンガ家の「なかはら かぜ」さんをお招きしたこともあり、終日のテーマは「異業種、教育外の世界を知る!」。

ややもすれば、閉鎖的になりがちな社会に身を置き、目に見える範囲で仕事をし、偏狭な動きに陥りがちな私たち(事務局だけかもしれませんが)。異業種、教育外の世界から何を学び取り、如何に自身の変容につながることができるのか... 面白く、豊かながら「自身が試された一日」だったと感じます。今回は参加者の「振り返り」を中心に、「学び」を報告しましょう。

講演 地域への感謝、貢献と企業文化、組織風土の醸成

あさひ製菓株式会社 代表取締役社長 坪野 恒 幸 さん



創業100年を超える老舗お菓子メーカーの社長さんとしてご活躍の坪野社長さん。その経営手腕は勿論、ふるさと山口、地元柳井、そしてお客さまへの思い入れの強さでも知られる経営者、地域人です。「山口の人に愛され、山口で育てられた企業だからこそ、山口に感謝し、山口に密着し、山口の誇りとなれるお菓子屋であり続けたい」という経営の「思いと術」を語って下さいました。ありがとうございました。

受講者のコメントから

「チャンスの神様は前髪しかない」。あさひ製菓の成長は、正にチャンスを積極的に掴み、成長していったことがわかった。話の中で印象に残ったことが2点ある。

まず、職員研修として「人間関係づくり」が重視されていること。会社の新人研修というと、イメージとしてはマナー講習や法令研修等があるが、新人社員同士が「自然に」仲を深められるように、そしてその内容を「新人社員に任せる」ところに大きな魅力を感じた。研修実施の実績でなく、中身を大切にされていた。コロナ禍以降の新人社員の傾向として、人間関係の構築が上手くできないことを指摘されたが、教育現場では、コロナ禍で行事の精選が行われ、業務改革の視点で「交流」的行事の削減が進められたと感じる。「コロナ禍が過ぎたから元通り」は違うが、こういった社会の声を聞くと「目的」を明確にした教育活動の見直しが必要であると感じる。

もう一点は「改革は、問題が起きてからではなく、いい時に行う」ということ。学校でも課題や問題を提起し、その解決のために協議の機会がもたれたり改善のための取り組みが行われたりする。そして「問題がなければ例年踏襲」という感覚が当たり前である。「大きな課題がないからこそ、さらによくするための取り組みを」、社長のこの言葉を聞いた時に深く共感した。そして、社長は、会社の理念や自分の考えを社員に浸透させるために、伴走者となる若手社員を自分が話す機会に帯同させると言われた。様々なコミュニケーションツールが社会にある中で、この方法は原始的で手間がかかるように思う。しかし、結局は人と人のつながりが一番理解を得るということを感じた。職員研修にも通じることであり、労を惜みず自分の考えを伝えることを大切にしていきたい。

あさひ製菓は、チャンスを掴んで成長してきたが、ただ機会が来るのを待っていたわけではない。社内の人材育成を大切に、協働できる土台を作ることで、巡ってきた機会を確実に掴んできたと感じた。(小学校教員)



企業経営における人材育成や長期的ビジョンの重要性を学びました。特に、個々の成長に焦点を当てることで、組織全体が進化するというアプローチは、私たちが教育の現場でも活用できる考え方です。社員一人ひとりの成長が企業全体の力を引き上げるという哲学は、教育現場での新たな視点になりそうです。学校経営や研修

体制においても、教師や生徒の個別成長に注力することで、組織全体の発展が期待できると感じました。また、企業に浸透した風土を守りつつ、先を見据えたスピード感のある挑戦を推進する姿勢が印象的で、教育現場にも応用したいスピリットがありました。経営者の人生観が企業のビジョンや意思決定に大きく影響することを学び、教育者としても長期的な視点で学び続ける重要性を改めて認識しました。(小学校教員)

坪野社長のお話の中で一番印象に残ったのは「一人勝ちはしない」という言葉です。徹底的なデータ分析や企業努力の成果で利益を上げていかれたのだから、その利益を守りたいと思うのは当然のことと考えるが、社長は自社だけでなく、柳井市の同業他社との共存、県全体の発展を視野に入れた取組を次々と行っておられた。その取組の中にはよい意味の「遊び」が含まれており、参加する人々の笑顔が見えるものばかりであった。これは、若い社員など、次世代を担う方々からのアイデアを柔軟に取り入れ、挑戦を後押しする社内の空気があるからなのだろうと考えた。社長は淡々と、ユーモアを含めてお話くださったが、新店舗がうまくいくのか、イベントの収益は図れるのか、毎回本当に胃の痛む決断の繰り返しをされているのだろうと想像する。先代から会社を引き継ぎ、次の世代へ良い形でつなぐ責任の重さは計り知れない。しかし、それ以上に、お菓子を食べるお客様の笑顔やアイデアを考えた社員の成長を見通し、挑戦を「楽しむ」心のゆとりや覚悟が、良い結果を生み出していくためには必要であると学ばせていただいた。

今、well-being な世の中を作ろう、ということが叫ばれているが、あさひ製菓の取組こそが、これを理想にとどめず、形として実践していくヒントになると考えた。あさひ製菓の取組をヒントに、教育現場の well-being を考えてみると、今「こうでなければならない」と思っている様々なことを一旦疑ってみることが必要と感じている。「月でひろった卵」というネーミングは、重役でなく、女性 CA の意見を採用したというお話があったが、学校のきまりや校則に関する議論にも児童生徒が関わるようになってきた。本当の意味で児童生徒を信頼して任せる心のゆとりと覚悟を、教職員や学校がもてるかが問われている。一方で、いくら子どもの意見と言っても、すべてを鵜呑みにしては経営が成り立たない。いくら要望があっても「甘くないお菓子」は作らないというお話にもあったように、これまでのデータをもとに、集団生活を行う「学校」という場において、これだけは譲れない軸をもっておくことの大切さも同時に教えていただいた。

最近職場の同僚と、「学校」という場は子どもに失敗してもいいよと言える貴重な場なのだから、失敗を恐れず、どんどん挑戦できる環境を作りたいね、と話すことがあった。社会に出れば結果を伴わなければその会社の存続にかかわるが、学校は挑戦することに価値を見出すことができる貴重な場である。その尊さを忘れず、これからの教育活動にあたりたい。(教育委員会職員)

「チャンスは逃さずつかむ」「かかわる人とのストーリー(ネーミングも含めて)」など学ぶことが多かったです。お話を聞いて率直に考えることは「これをやってみよう」と新しいことに挑戦しているかどうかです。また既存のプロジェクトや商品も変化をさせていったり、仕掛けていったりすることを大切にされていた。学校では、現状維持、前例踏襲を好む人が多い(教員側)。今の生徒も、これまでのやり方、既存の考え方、みんながやっていることをやる、ということではなかなか新しいものを生み出していく、これまでのものを変えていくという発想をしない(生徒の方はあきらめているか、そこまで学校でエネルギーを使いたくないのかもしれない)。世の中は変わっていつに学校の中身が変わらないというのはとても不思議なことです。教員自身や組織の成長を考えた時に、これではスキルは伸びていかないし、改善や質の向上がない。新しいものを拒むとても不思議な世界だと思えます。考えたいのは生徒の未来のこと、2030年40年50年を創り生きていく人たちのことで、その人たちにどういものが提供できるのか、どういう視点や軸を持って生きていって貰いたいのか。そういうことを考えた上での何をするかという検討が、教科指導や行事等運営を考える時も大切と思う。そうやって学びのストーリーや学校のストーリーを創っていくという意識を持ちたいです。(高校教員)



従業員に会社の理念を浸透させるために、会社説明会などに若手社員を帯同させる話が印象的でした。自分の会社の社長が第三者に社訓や企業理念を語る際の言葉遣いや表情を直接見るにより、若手社員は企業理念だけでなく、対外の人と話す際の言葉遣い、振る舞いなどの非言語的な部分や、社長が大事にしている思いを感じることができると思います。また、それによって、何か判断する時に、社長だったらきっとこう言うだろう、こう動くだろう、と、自然と社員が同じ企業理念のもとに決定を下す、という環境が作られていくのではないかと思います。このことを自分の教育活動にどのように活かせるかはまだ思考中ですが、とても印象に残りました。

一人の声の大きい人の意見を聞きすぎない、という話も印象に残りました。私も、声の大きい学生の主張に注目してしまう部分がありますが、実態の把握や、どのような授業内容が最善なのかは、大きな声に流されず熟考する必要があると感じます。授業の中で、扱う内容のリクエストがあると、ついその話をとり入れようとしてしまうのですが、限られた授業の時間の中で何を優先して教えるかは、教師側の私がしっかりと判断することが必要だと改めて感じました。また、これに関して、坪野社長は必ず数字を見て決めているとおっしゃっていたのも印象的で、授業で学生に伝える内容の優先順位をなんとなくではなく、数字などの客観的な事実をもとに決定する視点を取り入れようと思います。

チャンスの神様は前髪しかない、という言葉も印象的でした。この言葉自体は聞いたことがありましたが、坪野社長や、坪野社長のお父様の体験談を通じて、好機を逃さないための行動力の大切さと、それによって人生が全く違う方向に進むことを学びました。チャンスがきている時に、どれだけ思い切って行動できるよう、また、チャンスが来ていることに気がつけるように、日頃からアンテナを張って過ごして行こうと思います。(大学教員)

坪野さんの経験談や話し方から教員像、リーダー像の一端を垣間見ることもできた。中でも、坪野さんの話の何が人を引きつけるのかということに深く考えさせられた。講演中、周りを見渡すと30分以上たっても目線は坪野さんに集まっていた。話の規模が大きく、話題性があるのは勿論のこと、聞く人の経験や興味・関心に基づく話がこれの要因と思える。また、お菓子を聴講者に配るなど人間の潜在意識をくすぶる導入に加え、誰もが知っている具体物を基にした話により、終始飽きることなく魅了されたと感じた。私が今後、人の前に立って話す際には、聴き手に誰がいるのかを意識して話してみたいと思った。(教職大学院生)

まずは、「月でひろった卵」のお土産、ありがとうございました。県外の友人に「月でひろった卵」をよく持っていくので、あさひ製菓さんには日常にお世話になっていますが、地元企業の歴史や商品誕生秘話を聞くことができて、より愛着が湧きました。卵が産まれる過程や、ふわふわに仕上がる工夫を見ることができて、班の中では「できたてほやほやを食いたいなあ」というつぶやきも聞こえてきました。

紫陽花園の動画の中での会長さんの「個性に合った育て方をしたら、上手くいく。人間も同じ。」という言葉が心に残っています。教育界隈でも度々言われる個別最適な学びにもつながっていると感じ、素敵な紫陽花庭園のように子どもたちの個性に合った教育を模索し、花開かせたいと改めて思いました。(教職大学院生)



ありがとうございました！ そうなんです。坪野社長さんから「皆さんでどうぞ！」って「月でひろった卵」…3種類…なんと100個！会場内は甘い空気いっぱい！

「ちゃぶ台」=Cafe ですから、食べながらの受講もOK！みんなで、託児ルームのキッズたちも、美味しく頂きました。ありがとうございました。

経営者と学校関係者、その圧倒的な資質・能力の違い、私の力のなさとしての「差」を感じました。スライド発表からその終わりまで、一貫して「経営者として」の視点がズレていなかったように感じます。それは、我々学校関係者の苦手な視点で、民間経営者と公務員の違いとも理解できます。商品に対する情熱、お客様意識、地域貢献、未来的想像力、そして何よりも魅力的なプレゼン。そのどれをとっても、圧倒的な「民間力」を坪野社長は体現されていました。我々学校関係者は何を学ぶべきなのか。他者は他者、民間は民間、として切り捨てて考えるのか。すっかりと公務員気質に染まってしまうがちの私たちに、その覚悟を問われている講義だったと感じています。(小学校教員)

山口で生まれて100年
これからも思い出のそばに

Anniversary100th



あさひ製菓

ワーク 「教えて！坪野社長！」～坪野さんの人、仕事、人生から学べること～

後半はグループ別でクイズ形式の「Q&A」コーナー。
fake「社長」はなんと？ Real「社長」はなんと？ みんなが盛り上げてくれて！ ありがとうございます。

受講者のコメントから

坪野さんがどう答えるかを考える際、各自が坪野さんの話のどこに注目して聞いていたのか、どのように受け止めていたのか各々の違いがあり、それが多角的な視点を与えてくれ、自分の中で講演の内容をさらに深めていくことができた。社員に経営



ビジョンをどのように浸透させていくのかについて協議した際には、学校ビジョンをどう共有させるかに話を置き換えながら各学校の取組や各々のアイデアを聞くことができ参考になった。(総合支援学校教員)

社長さんの解答を予想する時、自分では思いつかなかった解答や考え方を聞くことができ、視野が広がりました。ランニングやピクニックの話など、断片的な情報から解答を推理するのも楽しかったです。(教職大学院生)



「教えて～！坪野社長！」面白かったですね。ただの一問一答形式ではなく、いったん受講生で話しあうことで、それぞれが話をどのように聞いていたか等が共有できました。(高等学校教員)



いつも思うことであるが、ちゃぶ台に参加されている皆さんは、日々大変なお仕事を抱えていらっしゃる筈なのに、元気いっぱいユーモアたっぷりにお話をされて素敵だな、と感じている。今年度は再就職した気持ちで日々の業務に取り組んでおり、心にゆとりがなくなりかけることもあるのだが、ここで皆さんとお話をするだけで頑張ろうという気持ちになれるから不思議である。

今回は、経営者としての坪野社長のお考えをグループで予測するというワークであった。坪野社長が厳しい局面もユーモアを交えてお話くださったからこそ、グループごとの解答もユーモアとウィットに富んだものばかりであった。担任のとき、クラスの児童(その日の当番)を主役にして、その子と心を合わせるゲームをしたことがあったのだが、その時のような一体感を感じ、研修等でもこのような堅苦しくない雰囲気です。県、市町の方針、管理職の考えを教職員とすり合わせていくことができないか、ということを考えて。(教育委員会職員)



企画運営全般を通じて、一見教育とは関係がないように見える内容でも、リーダーシップや組織運営の仕組みは学校教育にも通じる点があると気づきました。特に、周囲の意見を聞きながらデータや客観性を大切にするという姿勢は、子どもと関わる職業においても忘れがちなことになりそうだが、意識して大事にしなければならないと感じました。教育現場でも客観的な視点と周囲の意見のバランスが重要だと改めて学びました。(教職大学院生)



閉会

あっという間の午前中。最後に NITS 山口大学センター長の和泉研二先生の閉会挨拶にて終了しました。ありがとうございます。

連絡

1. 11月9・10日は、長門市での巡回・公開講座型研修会「NITS-Café」です。
 2. 12月21日は、セントコア山口を会場にして、午前が保護者の皆さんとの交流、午後が不登校や生徒指導を考える「NITS-Café」です。
- それぞれ、教職志望学生(山口県教委「教師力向上プログラム」受講生を含む)も参加します。



令和5年度実績と令和6年度計画

主催：山口大学（教育学部・大学院教育学研究科・NITS山口大学センター） 共催：山口県教育委員会・山口市教育委員会



コーホート (cohort)

同一の性質を有する同年齢集団 → 教職という立場や志でつながる同年代の仲間たち

ちゃぶ台次世代コーホートの基本

- ・学生、現職・大学教職員、教委関係者等による教員養成・教職研修プログラム
- ・自主的・自発的な実践・研修意欲を尊重した各ステージリーダーの育成
- ・週休日を中心とする年間10回の連続・積み上げ型研修の実施（6月～3月）

参加者が、それぞれの立場から、或いは立場を越えて協働し、理論的・科学的考察を行うとともに、実践と省察の往還、経験の共有をとおして自立した個として成長し続ける

2023年度の研修の実際

第1回 6月17日（土）午後 山口大学

「山口県教育の現状と課題 ～充実期教員への期待～」

山口県教育庁教育政策課教育企画班 班長 今田隆之

「困難や危機を乗り越えた学校がやったこと ～春日中学校のその時～」

追手門学院大学（前 奈良市立春日中学校 校長） 坂本静泰

第2回 8月26日（土）午前 セントコア山口

「この国の価値を次世代につなぐ ～起業家精神をもって生きること～」

株式会社「aeru（和える）」 代表取締役社長 矢島里佳

第3回 10月14日（土）午前 セントコア山口

「フィンランドから眺めた令和の日本型学校教育」

信州大学学術研究院・教育学系 教授 伏木久始

第4回 10月14日（土）午後 セントコア山口

「教職経験、教職への思いから、教職のやりがい、面白さや魅力を語ろう」

ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course 会員（現職教員）

「教職の仲間たちを増やすために～教職志望者の拡大をめざす大作戦～」

山口大学教育学部・教育学研究科（教職大学院） スタッフ

2023年度の研修の実際

第5回 11月 3日(祝)午前 周南市徳山動物園(フィールドワーク)

「動物たちの生態と人との距離」

周南市徳山動物園 園長補佐(獣医師) 木原一郎、飼育員

第6回 11月 3日(祝)午後 周南市立徳山駅前図書館

「周南市の教育について」

周南市教育委員会 教育部次長・教育政策課長 十楽さゆり

「アスリートとして生きること ～不可能とは可能性のこと～」

日立ソリューションズ「チーム AURORA」スキーマ 新田佳浩

(「平昌パラリンピック」金メダル、2023年「ワールドカップ」銅メダル)

第7回 12月23日(土)午前 セントコア山口

「子どもの成長、自立と保護者の願い、教職員の想い(保護者との座談会)」

山口県PTA連合会役員(10人)

第8回 12月23日(土)午後 セントコア山口

「社会の変化とこれから学校教育～主体性と当事者意識～」

横浜創英中・高等学校 校長 工藤勇一

2023年度の研修の実際

第9回 2月10日(土)午後 山口大学

「会員による実践・研究成果発表・交流会」

やまぐち総合教育支援センター長期研修教員

ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course 会員(現職教員)

特設 3月16日(土)午前 山口大学

「1年間の研修を振り返って(省察)」

第10回 3月16日(土)午後 山口大学

「インクルーシブ教育システムの構築」

新潟大学大学院教育学研究科

教授 長澤正樹

Everywhere you want to be! 2023

[NITS カフェ]・「ちゃぶ台」合同研修会「学級通信」
[NITS カフェ]・「ちゃぶ台」次世代コーホート連合事務局
2024.1.10
NITS 山口大学センター・教育学部・教育学研究科

「子どもたちの学び、育ち」、「この国の先と学校の姿」をど真ん中に置いて、
学校と家庭のつながりや学校教育のあり方を考えた「NITS カフェ」でした!

12月、山口市はクリスマス市になる...! まちがとてとても綺麗な12月23日。前日に終業式を済ませたばかりの先生たち、冬季休業目の学生たちが集まって、本年度2回目の「NITS カフェ(保護者と創造する学校の未来づくりセミナー)」を開催しました。

終日の研修行事にもかかわらず、茨城・大阪・広島・山口・福岡からの参加者は74人。現職教員32人(小15、中10、高5、特支2)、学生16人、教委担当者3人、大学関係者13人に県PTA連合会の皆さん(9人)とオンライン登場の工藤勇一先生。

寒い日でしたが、ホットでエネルギーが湧く Cafe! 充実した学びの概要を報告しましょう。

カフェ(ちゃぶ台WS)「子どもの成長、自立と保護者の願い、教職員の想い」
指導助言者(いつも元気な保護者を代表して) 山口県PTA連合会の皆さん

山口大学大学院教育学研究科の廣岡 亮 研究科長さんの開会挨拶に続いて、早速「カフェ」です。年齢、地域、職種、校種や立場等の異なる人たちが、心地よい空気感の中で語り合えるのが Cafe の魅力。保護者の皆さんの元気、勢い、やる気も加わって「勢いと未来志向の Cafe」って感じでした。ご参加下さった保護者代表の皆さん(学校・市・県PTA役員経験者)は、佐伯弘明・佐々木智美・辻本千夏・友里里絵・西川仁了・松田龍信・松永英治・松原真奈美・溝口憲治さんでした。年末にもか

多様な人材(みんなが健康者である、みんなが特性をもっている)が、互いを尊重し、一人一人の人間同士として関係を構築し、一緒に生活していく社会が実現できるように、子どもたちや保護者、地域とともに、学校での取組が進んでいくよう、頑張りたいと思います。(中略)

― 会場に集ってくださった参加者の皆さん(一部)と事務局さんで記念撮影(左端、メダルも一緒に! 野田さん、かつこいいます!)

「巡回型講座」や今回から始めた「託児サービス」についても意見を言いました!

昨年度は「下松市」と「宇部市(オンライン)」で、本年度は「周南市」で開催しました。地元教育委員会の方々には共催・会場確保・運営協力等で大変お世話になりました。

また、今回から「託児サービス」を始めました。「学び続ける教員」の育成、キャリアの形成支援や子育て支援、働き方改革に資する課題と捉え、県(こども・子育て応援局)と相談しながら実施しました。当日は、佐々木先生、周南市の行村弘子さん、幼児教育コース4年の井手佳奈さん、水村佳奈さんという保健師・看護師・保育士揃いの「保活な布陣」(笑) 大変お世話になりました。4人の託児者の皆さん、ありがとうございました。

受講者のコメントから

山口県について知ること、県内の様々な地域差について理解を深めることを目的とした地域研修は、とても面白い企画だと思います。自分ではなかなか行こうとしない所に行く機会を貰えることは貴重です。また、今回のように開催都市の教育について、行政の方からお話聞けるのが有意義です。「うちの市ではどうなってるんだろう?」と、所属市町の教育行政について関心を持つきっかけになります。ぜひ今後も取り入れていただきたいです。(小学校)

フィールドワークを振り返った終日開催で、日頃の研修では学ぶことのできない内容で、地域を知ることでできる機会になりました。公共交通機関移動ができる場所であったため、駅周辺や昼食を含めた散策ができるなど、移動を含めて学ぶ機会の確保につながっていました。県全体を数年単位で回っていくことで、勤務地以外の土地を知るチャンスになると、学部生だけでなく現職教員も学びを深めることができたと感じました。(小学校)

託児所開設は、今後の研修体制、キャリアアップの観点から大きな一歩となる体制づくりに感じました。体制を整える、環境を整える、人材を確保する等、様々なハードルを越えて実現できたことが、様々な立場の方のキャリアの支えになると確信しています。実際に利用された先生は、大変ありがたいサポートであったと思います。学部生の実地研修の一面も兼ね備えていたことで、プラスの面が多かったです。運営側の負担感は想像してはいますが、とても感謝する体制づくりに感じました。(小学校)

山口県外の開催は、他の市に目を向けるときにけり、非常に刺激のある研修でした。また、託児所などの配慮もあり、子育てをしながら研修会に参加されているお母さんの姿を見えて、私自身も頑張ろうと思いました。大変お世話になりました。(総合支援学校)

教員対象の研修会で「託児サービス」は初耳だったので、よく考えると、民間企業の女性社員対象(女性社員に限定することは別の意味で考えものと思うのですが)や、若い世代の参加が多い資格取得の講習会、子

2024年度の研修計画

- 第1回 令和6年 6月15日(土) 13:00~17:00 山口大学
「山口県教育の現状と課題 ~本年度の重点施策~」
山口県教育庁教育政策課教育企画班 班長 今田隆之
「山口県教育委員会による学力向上の取組」
山口県教育庁義務教育課指導班 主査 中野大輔
- 第2回 令和6年 8月24日(土) 13:00~17:00 山口大学
「リーダーとは~これからの学校におけるミドルリーダーシップ~」
岐阜聖徳学園大学 教授 玉置 崇
- 第3回 令和6年 10月12日(土) 9:30~12:00 山口大学
「山口への感謝、貢献と企業文化、組織風土の醸成」
あさひ製菓株式会社 代表取締役社長 坪野恒幸
- 第4回 令和6年 10月12日(土) 13:00~17:00 Basic 第1回 山口大学
「マンガをとおして伝えたいこと ~ボクらはサブカルチャーで育った~」
漫画家(周南公立大学経済学部 特任教授) なかはら かせ

2024年度の研修計画

- 第5回 令和6年 11月 9日(土) 13:00~17:00 Basic 第2回
長門市「山口県油谷青少年自然の家」(NITSカフェ①) (宿泊研修)
「地域防災力の向上に向けて ~東日本大震災の経験から~」
岩手県立図書館 館長 森本晋也(前 文部科学省安全教育調査官)
- 第6回 令和6年 11月10日(日) 9:00~12:00 Basic 第3回
長門市「青海島共和国」(NITSカフェ①)
「青海島はマグマの博物館 ~防災・安全意識を高めるためにも~」
青海島共和国 国王 濱野達男
山口大学(理学部) 名誉教授 今岡照喜
- 第7回 令和6年 12月21日(土) 9:30~12:00 Basic 第4回
山口市「セントコア山口」(NITSカフェ②)
「子どもたちを真ん中において(保護者との座談会)」
山口県PTA連合会 役員
- 第8回 令和6年 12月21日(土) 13:00~17:00 Basic 第5回
山口市「セントコア山口」(NITSカフェ③)
「不登校対策のありよう ~多様な子への理解を現場から~」
広島大学大学院人間社会科学研究科 教授 栗原慎二
山口市立大内中学校 教頭 中川真治
萩市立川上小学校 校長 山本豊三

第9回 令和7年 2月 8日（土） 13:00～17:00 Basic 第6回

山口大学

「外国人の目から見た日本 ～この国の価値と課題～」

京都先端科学大学 (KUAS) 国際センター アラン・チャンブリス

「留学生対応の実際から ～多様な人間集団を束ねる時に～」

京都先端科学大学 (KUAS) 総務部

兼子奈生子

「会員による実践・研究成果発表・交流会」

やまぐち総合教育支援センター長期研修教員

ちゃぶ台次世代コーホート会員

特設 令和7年 3月15日（土） 9:30～12:00 山口大学

「1年間の研修を振り返って（省察）」

第10回 令和7年 3月15日（土） 13:00～17:00 Basic 第7回 山口大学

「教科と探究をどうつなぐか ～対話型論証を中心に～」

京都大学大学院教育学研究科 教授 松下佳代